

家庭菜園相談室

今月の
テーマ

お菓子づくりにも活躍！ 爽やかな香りとビタミンCが豊富な～レモン～

レモン類は、柑橘類のなかでは耐寒性が弱いですが、近年は温暖化もあり、栽培可能地域が広がりました。

レモンは四季咲き性といって春から秋にかけて花と実をつけるので、長い期間白く可愛い花を楽しむことができます。



作型目安

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
レモン	—■		●—● ★—★	●—● ★—★	●—● ▲—▲		●—● ▲—▲	●—● ●—●		●—● ▲—▲		■—

● 植え付け・植え替え ● 追肥 ★ 剪定 ▲ 開花 ● 摘果 ■ 収穫

栽培のポイント

- ・日光を好むので、庭植えの場所、鉢植えの置き場ともに日当たり良好な場所を選びましょう。また、風当たりが強い場所は、落葉や病気の発生を助長するので注意が必要です。
- ・水はけのよい土に植え、適度な湿度を保ちましょう。
- ・寒さに弱いので、寒冷紗・不織布等の防寒対策はしっかりとしましょう（気温が-3℃を下回ると樹が弱り、枯死することがあります）。
- ・アゲハの幼虫は見つけ次第、駆除してください。

おすすめ品種

リスボン：ポルトガル原産。耐寒性が強く、日本で栽培するなら本種が最適といわれています。
マイヤーレモン：中国原産。オレンジとレモンの交雑種。耐寒性が強く、トゲの発生が少ないです。果皮は薄く、スパイシーな香りがあり、酸味が弱く、完熟果は丸かじりができます。

植え付け・植え替え

植え付けの適期は、3月下旬から4月中旬です。また、鉢植えの場合は、根詰まりを防ぎ通気をよくすることを目的に2～3年に1回は植え替えが必要です。

剪定

3月から4月中旬にかけて行います。ただ枝を切り詰めるだけでなく、日当たりを配慮しての整枝が大切です。春に伸びた枝に翌年実をつけるため、結実させたい枝は、剪定しないのがコツです。

施肥・摘果

レモンは四季咲き性があり、5月、7月、9～10月の年3回ほど花が咲きますが、5月に咲く花を実に育てます（7月以降の花は、実になっても大きくなりません）。
 レモンは「1個の実をつけるために20～30枚の葉が必要」と言われています。葉をつけさせるためにも、適度に水やりをし、3～10月にかけて肥料を欠かさず与えましょう。
 また、レモンは「隔年結果」という、よく実る年と実らない年を交互に繰り返す性質があります。これを調整するには、付き過ぎた果実を小さなうちに取ってしまう「摘果」を、8月中に行います。

収穫

収穫時期は11月中旬からで、翌年1月頃までに終わらせませす。12月の熟しきれた「イエローレモン」はもちろん、熟す前のフレッシュな「グリーンレモン」を収穫しても良いでしょう。

病害虫

病気

レモンの病気でもっとも気をつけたいのが、「かいはよう病」です。トゲや風による擦れによって実や枝に傷がつき、そこに病原菌が入って発生します。「かいはよう病」を防ぐためにも、レモンのトゲを元からカットし、果実のまわりの不要な枝も剪定するとともに、5～6月にかけて薬剤防除をすると良いでしょう。薬剤は、Zボルドーなどの銅を含む薬剤があります。

害虫

アブラムシ、アゲハの幼虫、ミカンハモグリガ（エカキムシ）、カミキリムシなどが発生します。特にミカンハモグリガは夏芽、秋芽を加害するので、幼木を早く大きくするには、防除が欠かせません。また、食害痕から「かいはよう病」が侵入する場合も多くなります。

その他、家庭菜園に関する相談は、JAの支店または営農経済センターまでご連絡ください。